

言語文化学科		教授	和田 智	大学院の授業担当 無
<b>教育活動</b>				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				
1	学生の授業参加意識の向上の取り組み	2002年4月～	大規模講義クラス(100人超)では、携帯電話を有効利用するための研究を行っている。質問、意見、アンケートを授業時間中リアルタイムで処理、表示し、学生の興味関心を増し、授業参加意識の向上が数値データとしても認められた。	
2	授業評価への取り組み	2002年4月～	上記携帯電話によるアンケート方式を利用し、授業直後にアンケートを実施し、5段階評価でその日の授業評価を学生にお願いした。学生はその結果を閲覧できる。授業内容、授業方法についての学生からの質問意見は、携帯電話からの無記名の意見の吸い上げを行っている。また、総合的評価は期末試験と同時に記述できるよう実施している。	
3	学生の評価への対応	2002年4月～	上記方法は、即時に学生の意見に対応できるため、授業進行中、学期中の対応が可能である。学生のリクエストに対し、教員の対応が可能なこと、不可能なことを授業中に伝えることができる。	
4	学生評価方法の改善への取り組み	2004年4月～	普通紙利用のマークシートの利用に関して、低コスト、教員の利便性向上のために、具体的な利用方法を開発中。多面的な学生評価のために利用。また、即時的な学生による授業評価にも利用できる。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
1	授業用スライドの公開	2002年～	学内の講義支援システムを利用し、学生が授業で使用したスライドファイルを自由に閲覧、利用できるようにしている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
1	AACE E-Learn, Vancouver, Canada, 2005において「On the Use of Cellular Phones in a Large Class for Activating Students' Participation」とHonolulu, Hawaii, 2006において、継続して授業での学生の参加意識向上のための携帯電話の利用の方法と利用評価について「Effective Use of Cellular Phones in a Large Class for Activating Students' Participation」として発表	2006年10月	授業での3年間にわたる携帯電話利用の方法とその評価を2回にわたって継続研究の結果を発表。2006年、第1著者。授業での携帯電話利用は学生の参加意識向上のために有用であることが検証された。	
4 その他教育活動上特記すべき事項				
<b>学会等および社会における主な活動(学外の委員、役職等)</b>				
年月日		活動内容		
1987年4月～現在に至る		日本体育学会会員		
1995年4月～現在に至る		大学スケート研究会常任理事(現在に至る)		
1995年4月～2005年3月		埼玉県キャンプ協会副理事長		
2005年4月～現在に至る		NPO法人埼玉県キャンプ協会常務理事		
<b>その他</b>				